

目次:

○編集局よりのご挨拶

■GDNとは?: GDN 活動の紹介

■GDNと私: 近藤 正規 国際基督教大学上級准教授 (GDN 日本代表理事)

■その他: メンバー機関からの News 掲載

「世界遺産と開発－貧困削減に向けた開発協力－」セミナー

○編集局あとがき

○編集局よりのご挨拶

平素 GDN-Japan 活動に御理解、御協力頂きましてありがとうございます。

6月に発刊致しました GDN-Japan-NL ですが、メンバーの皆様より暖かい励ましのお言葉を頂戴しました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。ありがとうございました。

また、貴重な御示唆も頂いております。幾つか御紹介致しますと、

◇「イベントのニュースなど具体的な情報が多いと読みやすいのではないか。」

◇「『GDNと私』については、GDN 本体の人達にも御願いは？」

◇「メルマガの特性をいかして、もっとタイムリーな内容を紹介しては？」

何れも御尤もな御指摘ですので、今後参考とさせて頂きたいと思えます。

特に最後のものについては、タイムリーなトピックを不定期で配信する

「GDN-Japan Newsletter 号外」という形で実現していきたいと思えます。

なお当該 NL ですが好評であったため、GDN-Japan 外に対しても、開発分野研究に関する関心を広め、GDN の活動について理解を深めていくため、今月号配

信に併せバックナンバーを GDN-Japan の web

(http://www.gdn-japan.jbic.go.jp/japanese/outline-j/activity_5.html)

に掲載しております。

最新号については、これまでどおり GDN-Japan メンバー(団体会員及び個人会員)に向けての配信となります。

※当該 NL は A4ヨコハーフサイズで印刷されると読みやすいようにレイアウトしております。

では今回も「GDN とは？」から。

■ GDN とは？ : GDN 活動の紹介

GDN の活動は大きくは「ネットワーク形成」、「研究活動」、「人材育成」の3つからなります。幾つかの活動について次号以降でまた御紹介したいと思います。

【ネットワーク形成】

● GDN Net <<http://www.gdnet.org/>>

GDN が運営するウェブサイトです。GDN の活動紹介のほか、世界中の研究者が登録する研究者データベース、登録者の論文、研究ツール等があり、GDN が提供するサービスの大きな柱となっています。

● データ・イニシアチブ <http://www.gdnet.org/middle.php?primary_link_id=5&secondary_link_id=18>

GDN Net 上で登録を行なった低中所得国の研究者に対し、世界銀行のデータベースへのアクセス権を与え、研究活動でのデータの活用を促進させるものです。

● GDN 年次会合 <<http://www.gdnet.org/middle.php?oid=88>>

GDN 年次会合は、世界中の研究者、政策立案者、援助機関の参加により、年に一度開催される GDN の全体会合です。メインテーマに沿って開かれる本会その他、分科会、理事会合、地域ネットワーク会合、国際開発賞最終選考・授賞式等が開かれ、出席者数百人規模に達します。次回第 10 回年次会合は 09 年 2 月にクウェートにて“Natural Resources and Development”のテーマのもと開催される予定です。

● 地域ネットワーク会合

地域ネットワーク(RNP) <<http://www.gdnet.org/middle.php?oid=28>> によっては、調査結果の発表、研究者と政策立案者の間の交流などを目的として、地

域ネットワーク会合を開催しています。日本のネットワークである GDN-Japan のネットワーク会合の様子は GDN-Japan の HP <<http://www.gdn-japan.jbic.go.jp/japanese/outline-j/index.html>> をご参照ください。

【研究活動】

● 国際共同研究プロジェクト (Global Research Project: GRP)

[http://www.gdnet.org/middle.php?](http://www.gdnet.org/middle.php?primary_link_id=3&secondary_link_id=10)

[primary_link_id=3&secondary_link_id=10](http://www.gdnet.org/middle.php?primary_link_id=3&secondary_link_id=10)>

ネットワークを活用した世界的な研究活動。各テーマに基づき世界で共同研究を実施しております。

◇ Promoting Innovative Programs from the Developing World: Towards realizing Health MDGs in Africa and Asia

<<http://www.gdnet.org/middle.php?oid=1095>>

(途上国の先進的プログラムの推進: アフリカ・アジアにおける保健衛生分野の MDGs 達成に向けて)

◇ Development on the Move: Measuring and Optimizing the Economic

and Social Impacts of Migration <<http://www.gdnet.org/middle.php?oid=1214>>

(移動する途上国人口: 人口移動の経済・社会インパクトを計る)

◇ Impact of Rich Countries' Policies on Poverty: Perspectives from the Developing World <<http://www.gdnet.org/middle.php?oid=419>>

(先進国の政策が貧困に与える影響: 貧困国からの視点)

◇ Understanding Reform <<http://www.gdnet.org/middle.php?oid=80>>

(改革への理解を深める)

◇ Bridging Research and Policy <<http://www.gdnet.org/rapnet/>>

(研究と政策の橋渡し)

◇ Explaining Growth <<http://www.gdnet.org/middle.php?oid=76>>

(成長の研究)

● 地域研究コンペ (Regional Research Competition: RRC)

<<http://www.gdnet.org/middle.php?oid=64>>

多くの地域ネットワークは、当該地域に即した研究テーマについてリサーチコンペを行っています。地域内外の専門家による論文選考の後、ワークショップの開催、アドバイザーによる助言等を通じて、受賞者は論文を完成させていきます。GDNは地域研究コンペを通じてこれまで、約 800 の賞に 1900 万ドルを提供しており、途上国研究者の育成に貢献しています。

【人材育成】

● 国際開発賞(Global Development Awards)

<http://www.gdnet.org/middle.php?primary_link_id=3&secondary_link_id=9>

開発に関する知識の創出(knowledge generation)を促すため、開発分野の研究やプログラムに関して業績のあった個人・グループに年に一度、国際開発賞を授与しています。1999年3月に東京で開催された The World Bank Symposium on Global Finance and Development において宮澤大蔵大臣(当時)が創設を提唱し、1999年12月のGDN第1回年次会合(ボン会議)にて正式に発表されました。

◇日本国際開発賞

リサーチ部門とプロジェクト部門に分け、それぞれの最優秀賞及び次点に対して、賞金及びGDN年次会合への渡航費を授与しています。開発途上国出身の研究者・研究機関が対象とされ、今後の研究・活動を支援すること、ひいては途上国研究者の Capacity Building を目的としています。

◇メダル部門

毎年、年次会合のテーマに沿って提示される5テーマについて、完成した調査研究に対して革新性やクオリティーを評価し、それぞれ最優秀及び次点の調査研究に賞金及びGDN年次会合への渡航費が授与されます。各賞の賞金は、GDNや先進国の財務省等から提供されています。

最新の国際開発賞受賞者については、第8回国際開発賞をご覧ください。

● トレーニング・プログラム

GDNのリサーチコンペ等に応募している途上国の研究者等を先進国機関に派遣するプログラムです。現在実施中のプログラムでは、国際通貨基金(IMF)の研究部門(ワシントンDC)へ、毎年5人までが5週間派遣されております。

● スタッフ交換プログラム・奨学金等

人材交換プログラムや奨学金等にかかる情報を、GDNのウェブサイト <http://www.gdnet.org/middle.php?oid=249> で紹介しています。

【日本代表理事就任】

GDN が発足して以来、これまで9回の年次会合が世界各地で開催されました。その大半に参加し、さらには縁があつて 2005 年以来、GDN の日本理事を勤めさせていただいています。そもそも理事をさせていただくようになったのは、GDN の発足時より尽力されてきた文教大学の林先生より電話があり、GDN の日本理事就任の依頼を受けたことがきっかけです。

当初は、とまかく日本代表理事ですし、前任者が早稲田大学の浦田先生ということもあり、自分では力不足ではないかと最初は考えました。しかし、そういう出来るかどうかかわからないことは、これまでの人生でだいたい引き受けてきたので、無責任を覚悟でお引き受けしました。最近私はインド経済の専門家ということにすっかりなっており、たまたまこの GDN がニュー・デリーに本部を置く最初の国際機関ということになったというのも、偶然のめぐり合わせでした。

【理事会の様子】

日本代表理事としての私の主な任務は、毎年2回行われる理事会に参加することです。そこで今回は、その理事会の雰囲気についてご報告してみたいと思います。この GDN 理事会は、エルネスト・セデージョ エール大学グローバルゼーション研究所所長(元メキシコ大統領)を理事長、リチャード・クーパー ハーバード大学教授を副理事長として、他 18 名の理事から構成されています。

理事会では、年次会合にかかるさまざまな決定事項などについてだけでなく、基本的な運営方針から、財源、人事に至るあらゆることが、ほぼ2日間に渡って議論されます。理事会では通常、GDN 事務局が前回理事会以降の活動と今後の予定について、プレゼンテーションを行い、それに対して理事長の議事進行を受けて理事が自由に意見を出し、最終的に事務局の現在の活動が承認され、いくつかのアドバイスがなされる、という感じです。

理事会で実際に議論される内容は、GDN-Japan の会合でも報告させていただいている通りで、次の年次会合の場所やテーマの決定、財源や予算配分に関する議論、これまでの GDN の評価と今後の戦略など多岐に渡ります。アジェンダも数多いだけに、理事会は朝から夕方まで終日会議を行っており、その間かなり多忙です。

GDN 理事会は、国連などとは全く違い、政治的な色合いがなくギクシャクとし

たところありません。これは第一に、GDN が多くの国際機関と違って各国が国益を主張し合う場所でないこと、第二に、理事会と事務局の間の関係が良好であり、事務局長が交替した後でも信頼関係が継続していることによると思われます。

おそらくこれまでの理事会で大きく理事の意見が割れたことは、GDN が国際機関化を目指すか国際 NGO となるのか、という方向性を決めた時のみでしょうか。その時は理事の意見が南北で割れて投票に持ち込まれ、わずかの差で国際機関化を進めることに決まったのでした。

【理事の面々】

理事会に参加する理事は、各地域の主要研究機関の研究者がほとんどで、だいたい皆が国際会議の常連です。私も GDN 以外でも顔を合わすことが多いです。GDN の会議や他の会合で顔を合わせると、皆「やあ、また」という感じになります。

そういったこともあって、理事会の雰囲気もざっくばらんで、かつフレンドリーでして、アカデミックな感じはむしろなく、官僚的な雰囲気も全くといってよいほど感じられません。

理事会のメンバーの中でも尊敬を集めているのはセディージョ理事長で、いろいろな点でさすがに一国(メキシコ)の元大統領という感じです。それ以外に理事会で多くのアドバイスを与えているのは米国政府の政策顧問も長く勤めていたクーパー副理事で、事務局以外の発言は、この 2 名でかなりの部分を占めていることも少なくないです。それ以外ではアルワリア理事が、自国のインド政府に国際機関化を承認させることに尽力しました。こうした一流の人材とともにこの理事会に参加できるのは、私にとっては光栄であり、有難いことだと思っています。

【ナンカーニ事務局長】

昨年8月、GDN 設立当初から7年の間、事務局長を務めたリン・スクワイア氏に替わり、国際公募で選ばれたゴビン・ナンカーニ氏が事務局長を務めています。この二人を比べると、もともと世銀でも有名なエコノミストであった学者肌のスクワイア氏が自分で細かいことにも目を通すタイプであったのに対し、ナンカーニ氏はより GDN の戦略といった大きいことを考えるのが好きなタイプのようです。そのため、最近の理事会では彼の作成した戦略ペーパーをもとに、今後の GDN の方向性が議論されることが多くなりました。

とはいえ、GDN の今後の方向性が大きく変わることはないと思われ、経済学だけでなく、開発に関係する全ての学問を網羅しようという姿勢、政策に関係の深い研究を特に奨励しようという雰囲気、それからさまざまな地域間で知識を共有

することを重視する雰囲気は一貫しています。そして、私もそうした方針には賛成です。

【日本からの貢献】

日本の開発研究は、フィールド研究に根ざしたものとくに比較優位があります。日本の研究者が詳しいアジアの経験をアフリカに活かすためにも、GDNはふさわしい場です。そうしたことから、これまで以上に日本の研究者には、GDNの会合に赴いて研究発表をして欲しいと思います。これはGDN-Japanの事務局が考えているばかりでなく、リン・スクワイア前事務局長も私に言っていたことでした。国際機関となった新しいGDNの今後に関して日本の皆様のご意見・ご希望も出来るだけ反映させるように私も努めていきたいので、ご意見等あれば、ぜひ提言していただきたいと思います。

■その他:メンバー機関からの News 掲載

「世界遺産と開発－貧困削減に向けた開発協力－」セミナー

セミナーのご案内

「世界遺産と開発－貧困削減に向けた開発協力－」

8月29日(金)に国連大学にて「世界遺産と開発－貧困削減に向けた開発協力－」と題したセミナー(主催:UNESCO世界遺産センター、国際協力銀行)が下記のとおり開催されます。

詳細なプログラム、また参加登録に関しては下記ウェブページをご参照ください。みな様のご参加をお待ちしております。

※本セミナーに関する問い合わせは、下記の通り、WHC-JBIC Tokyo Seminar 2008 運営事務局へ御願ひ申し上げます。

【開催概要】

日時: 2008年8月29日(金)9:30~17:30(開場 9:00)

テーマ: 「世界遺産と開発－貧困削減に向けた開発協力－」

主催: UNESCO世界遺産センター、国際協力銀行

会場: 国連大学 ウ・タント国際会議場(東京)

参加費: 無料

言語: 日本語・英語(同時通訳あり)

ウェブページ: www.congre.co.jp/whc-jbic/tokyoseminar2008

【お問合せ先】

WHC-JBIC Tokyo Seminar 2008 運営事務局(株式会社コングレ内)

〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル 6 階

Tel: 03-5216-5551

Fax: 03-5216-5552

E-mail: whc-jbic@congre.co.jp

○編集局あとかき

如何でしたでしょうか。次回、第 3 号は 10 月中の配信を予定しております。

10 月 1 日より誕生する新 JICA としての発刊となります。

GDN の活動について広く御理解を得るべく、分かり易さを旨として配信して参りたいと思います。次号の「GDN と私」では、GDN-Japan の RNP ヘッドである
弊行開発金融研究所三輪次長が登場予定です。

皆様より御意見を頂きましてより良くしていきたいと思しますので、当該 GDN-Japan ニュースレターへのご質問やご意見などを gdn-japan@jbic.go.jp まで是非お寄せ下さい。

=====